



学校教育目標 かしくく たくましく 心豊かな 児童の育成  
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和7年4月30日号  
家庭数配付

# 鈴谷小だより

令和7年度 第2号

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

鈴谷小Webページアドレス <https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>

## 当たり前のようについて

校長 西谷 健児

風薫る5月、入学式に満開だった校庭の桜も今は若葉が風に揺れ、何をするにも心地よい季節となりました。休み時間にもなると校庭から元気いっぱいな子ども達の声が聞こえてきます。入学・進級から一か月がたち、子どもたちは、新しい学級やお友だちにも慣れてきて、どのクラスからも楽しそうな声が聞こえてきます。保護者の皆様には、年度当初の授業参観・懇談会にご出席いただきありがとうございました。お子様や学級の様子はいかがだったでしょうか。お陰様で、今のところ、大きな事故や怪我もなく、順調に新年度をスタートすることができました。ありがとうございます。

4月16日には、1年生の給食が始まりました。当日は、ずいぶん早く、6年生が給食を食べて片付けを手伝いにきてくれました。1年生には食器も重たく、慣れない後片付けには時間がかかります。お手伝いの6年生が小さな1年生に寄り添いながら、優しく手伝ってくれました。始業前には、登校してきた1年生のランドセルを後ろのロッカーに入れるなど、お支度を手伝ってくれました。帰りには、掃除の際に机や椅子を運ぶのを手伝ってくれたり、教室をほうきで掃いたり率先して手伝ってくれました。

このような関わり方は、私が教員になった頃からありましたから、もうすでに何十年も続いているのでしょう。このような光景は、日本の小学校では、当たり前の光景なのですが、実は当たり前ではないのだということに、最近になって気付かされました。山崎エマ監督の「小学校～それは小さな社会～」というドキュメンタリー映画が昨年、公開されました。そして、その短編版が第97回米アカデミー賞の短編ドキュメンタリー部門にノミネートされ、日本でも話題になりました。(本編23分の短縮版がNYタイムズ運営動画サイトで「Instruments of a Beating Heart」というタイトルで配信されており見ることができます)

日本の公教育は社会・集団との協調性や責任感を育て、素晴らしい面もありますが、反面、その強さに苦しめられる人もいます。そのことを十分に踏まえながら、それでもやはり、この日本の伝統的な当たり前に行われている教育手法はすばらしいなあと思います。

4月24日には、1年生を迎える会がありました。6年生が1年生の手をひいて体育館に入場し、全校児童が歓迎の言葉で迎えたり、歌を歌って手作りのプレゼントを渡したり、30分ほどでしたが、とてもあたたかな時間が流れました。4月17日には、2年生が1年生に遊具を使って、一緒に遊んであげていました。2年生が先輩となって、一緒に遊んであげている姿はほほえましくもありました。「人は人によって人になる」という言葉があります。コロナ禍を経て、私たちは対面での人と人の関わり合いの大切さを痛感いたしました。

本年度も、鈴谷小学校では、このように豊かな関わり合いのある教育活動を通じて、お互いが育ち、共に高め合える教育活動を行ってまいります。これからの子ども達の成長をぜひ、楽しみにしてください。

